

令和5年3月23日
国土交通省東京航空局
成田国際空港株式会社

**首都圏空港（羽田・成田）で
駐機中の航空機の“アイドリング”を減らして脱炭素化に貢献します
～GPUのさらなる利用促進によりCO2削減効果を高めます～**

首都圏空港（羽田空港、成田空港）において、今春より、駐機中の航空機に必要な電力や空調をまかなうために用いるAPU（Auxiliary Power Unit：補助動力装置）の利用制限を我が国で最も厳しいレベルに引き上げ、CO2削減効果のより高いGPU（Ground Power Unit：地上動力施設）の利用をさらに促進することで、空港における脱炭素化に貢献していきます。

世界各国・各分野でカーボンニュートラル推進の動きが加速する中、我が国においては、令和4年12月に施行された航空法・空港法等の改正により、両法の目的規定に脱炭素化の推進が位置づけられたところです。

このような中、首都圏空港において、駐機中の航空機に必要な電力や空調をまかなうために用いるAPUについては、これまで原則として、利用時間を出発前の「30分以内」に制限しておりましたが、今春*より出発前の「15分以内」に短縮し、我が国で最も厳しいレベルに引き上げます。（*羽田空港では3月23日より、成田空港では4月20日より変更）

GPUの利用により、APUの利用時と比べてCO2排出量は約1/15以下（ボーイング777の場合）となります。GPUの利用促進により、首都圏空港における脱炭素化の推進に貢献していきます。

■ GPU供給概念図

